

「銀^{きず}で築き 清水と共に歩み 地熱^{ひら}で未来を切り拓く」

いにしへの

火山のめぐみ あつき雪

いかして築^{きず}く 歴史と暮らし

とくべつ とうせつ ちたい 特別豪雪地帯に指定される湯沢市^{ゆざわ}は、東北地方のちょうど真ん中に位置します。太古の火山活動などによりつくり上げられた大地では、「湯沢」の名のとおりの潤沢^{じゆんたく}な温泉のほか、鉱山資源と豪雪がもたらす豊かな水が農業や酒造りなどの地場産業に結び付き、人々が文化を形成してきました。そして地熱資源は、地熱発電など地域の未来への可能性を与えています。ゆざわジオパークは、「見えない火山」により形成された大地と、地形がもたらす「あつき雪」、その中で築かれてきた人々の営みを体感できるジオパークです。

全国でも珍しい温泉の滝

かわらげおのおゆたき
(川原毛大湯滝)



YUZAWA GEOPARK
ゆざわ
ジオパーク

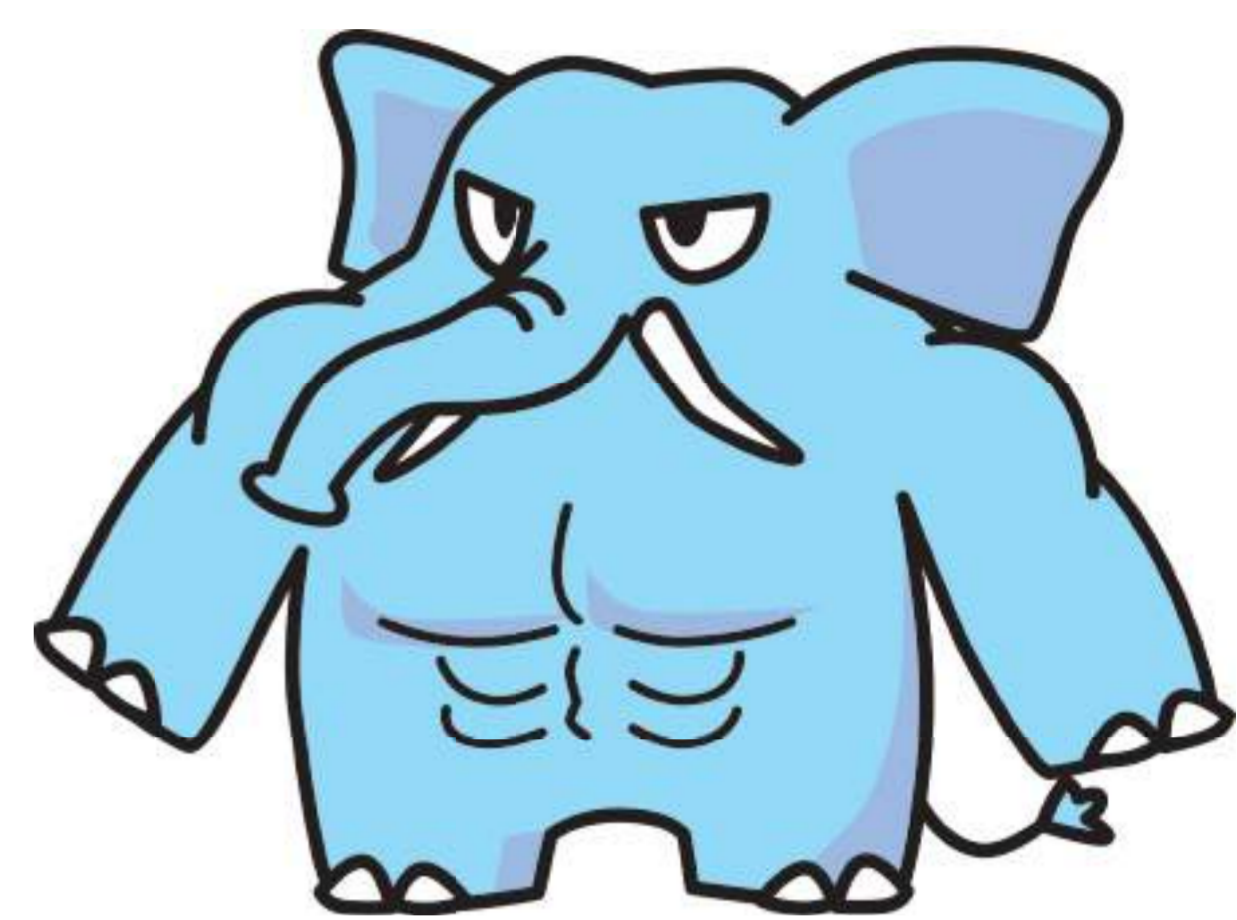


しず小町



力の湧き出る水？

ちからみず
力水は環境庁が選定する日本名水百選の一つです。かつては佐竹南家のお屋敷があったことから「御膳水」とも呼ばれて、飲料水として使われていました。「飲むと力が湧く」と愛用され、いつしか力水と呼ばれるようになりました。



ジオモン：リクスイ

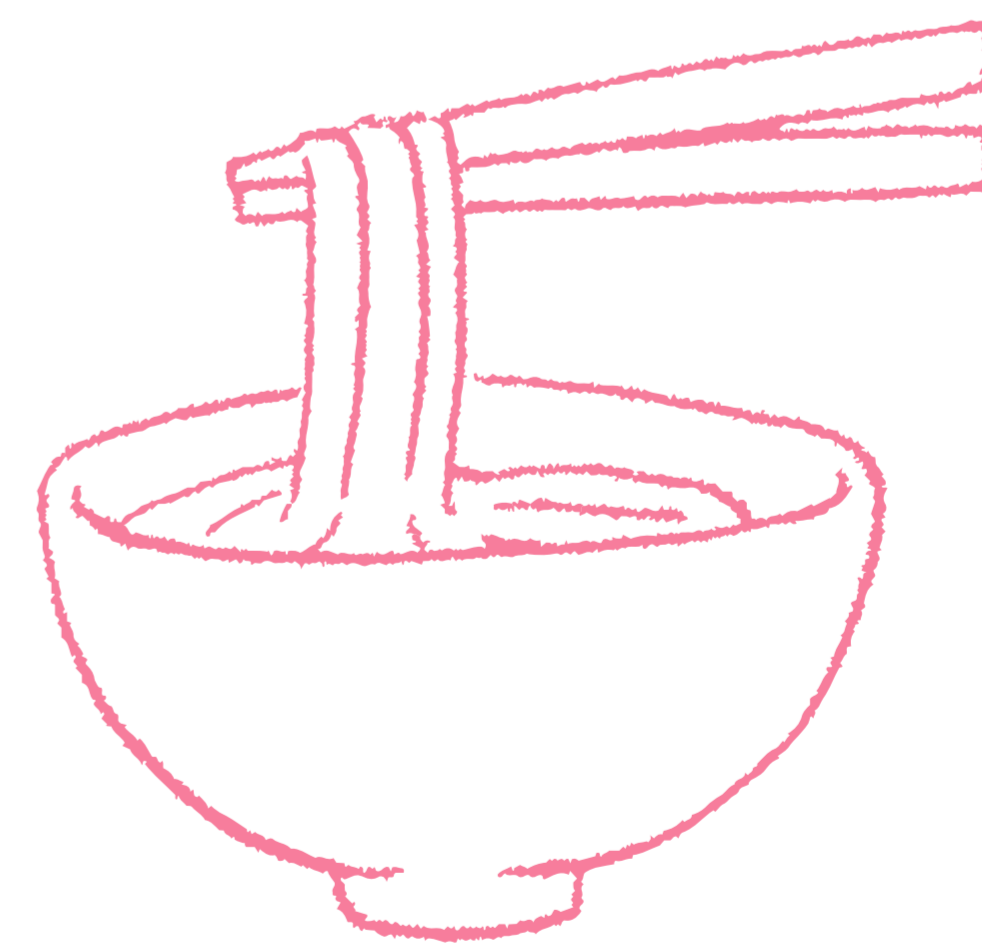


ふ〜ん

ジオモン：ツルコシどん

稲庭うどんは日本三大うどんの一つ

いなにわ
材料は「小麦粉」、「塩」、「水」のみで、独特の手延べ製法によって作られます。かつては三梨地区で栽培されていた小麦と、豊富な地下水や湧水が材料として使われていました。



湯沢が酒どころになった理由

湯沢の湧水が生み出した地場産業の一つに酒造業があり、市内では院内石を用いた酒蔵を見ることができます。大消費地であった院内銀山の坑夫への供給、豊富な水、気候、酒造りの技術が重なって酒どころへと発展しました。



「見えない火山を探しに行こう」

湯沢の地下ではまだ火山の活動が継続していて、
川原毛地獄かわらげや小安峡大噴湯おやすきょう だいふんとうをはじめ、様々なところでその活動を垣間見ることができます。

へえ



ジオモン：ダイフントウ

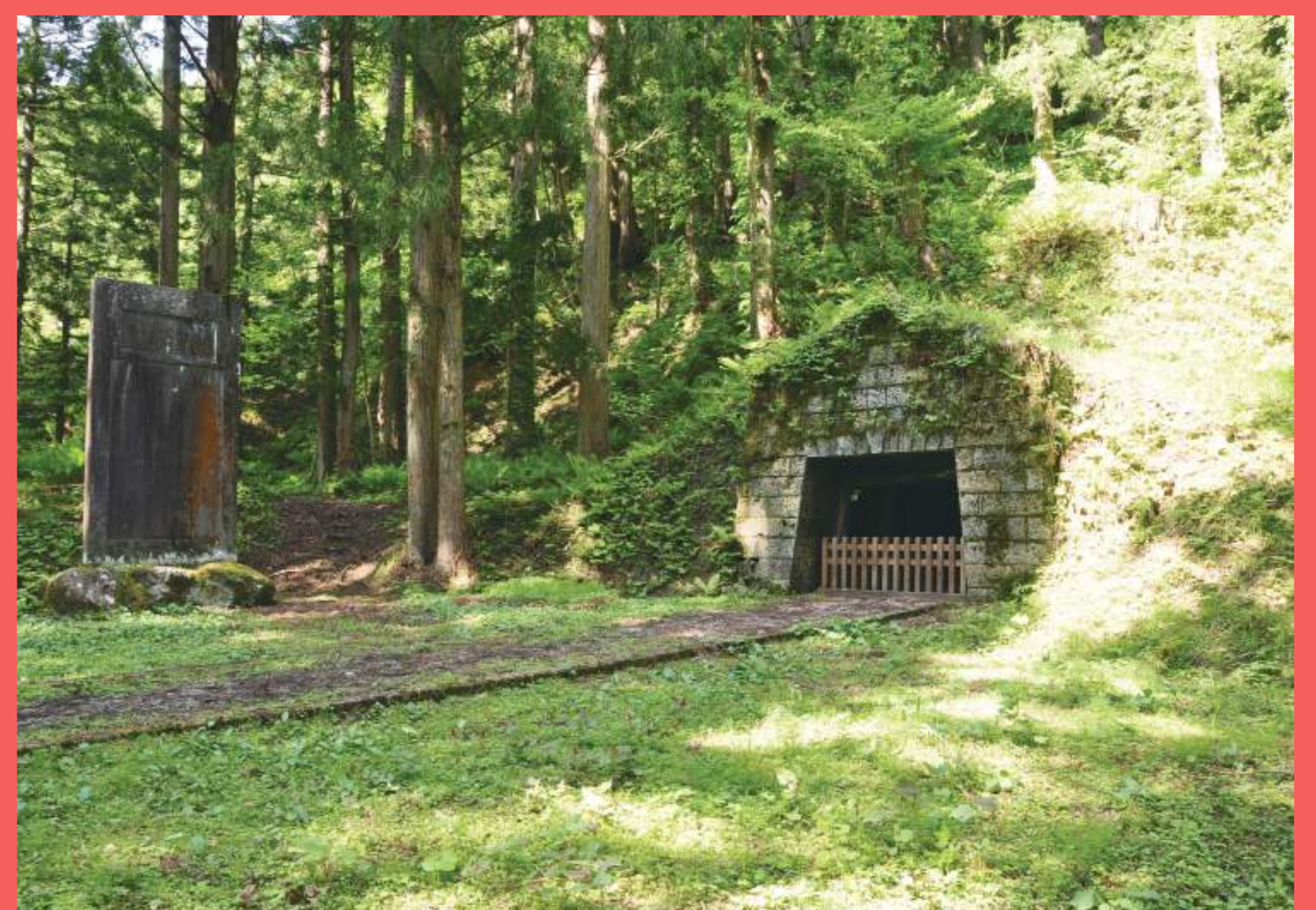


大地の息吹を感じる

小安峡おやすきょうは高低差約60m、長さ約8kmに及ぶ溪谷みなせで皆瀬川がわが長い年月をかけて大地を刻みくつられました。大噴湯さんずがわ そうでは、谷底の壁にあたる三途川層の隙間や割れ目から98℃の熱水がごう音と共に噴き出していて、ゆざわジオパークにある豊富な地熱を体感できます。

明治天皇も訪れた銀山

江戸時代後期から明治時代に最盛期を迎えた銀鉱山で、かつては日本一の銀産出量を誇っていました。坑夫の唯一の出入り口だった「五番坑ごばんこう」は明治天皇御巡幸ごじゆんこうの際の見学坑道で、のちに「御幸坑みゆきこう」と名を改め現在も残っています。





沼は大地へと移り変わる

標高580mの^{きじやま}木地山高原にある水深1~5mの浅い沼で、昭和43年に県の天然記念物に指定されました。沼の表面が^{うきしま}浮島に覆われています。このような浮島やそこに生息するミズゴケを主体とする湿地を「^{こうそうしげん}高層湿原」と呼び、沼から陸への移り変わりを考える上で大変貴重と言えます。



ジオモン：ふわりかげ

どうして川原毛地獄は白い？

^{おそれざん}青森県の恐山、^{たてやま}富山県の立山と共に日本三大霊地の1つです。現在も噴出している^{りゅうさん}硫酸を含むガスの^{ひょうはく}漂白作用によって山肌が白くなっており、地獄のような光景が広がっています。



なるほど



ジオモン：おけのゆまる



オリジナル足湯をつくってみよう！

秋の宮温泉郷を流れる^{やくないがわ}役内川の川原にあり、常備されているスコップで川底を掘ると温泉が湧き出てきます。自分で湯船を作りオリジナル足湯を楽しむことができます。